

款　　　　　項			予　算　現　額	支　出　済　額	翌年度繰越額	不　用　額	予算現額と支出 済額との比較
5		空港事業費	1,297,840,000	1,278,663,606	0	19,176,394	19,176,394
	5	空港管理費	461,288,000	453,974,346	0	7,313,654	7,313,654
	10	空港建設費	592,389,000	584,447,592	0	7,941,408	7,941,408
	15	職員給与関係費	108,194,000	105,785,687	0	2,408,313	2,408,313
	20	公債費	135,969,000	134,455,981	0	1,513,019	1,513,019
歳　出　合　計			1,297,840,000	1,278,663,606	0	19,176,394	19,176,394

歳入歳出差引残額

0円

3. 帯広市一般・特別会計予算執行の概要

帯広市一般・特別会計予算執行の概要

1 平成２９年度における国の予算及び地方財政について

(1) 国の予算について

平成２９年度予算は、我が国財政の厳しい状況を踏まえ、引き続き歳出全般にわたり、聖域なき徹底した見直しを推進するものとして編成された。また、一億総活躍社会実現のための子育て・介護や成長戦略の鍵となる研究開発など重要な政策課題について、必要な予算措置を講じるなど、メリハリの効いた予算編成を目指すこととされた。一億総活躍社会は、実現段階に入り、誰もが自分の夢を追求できる、誰もが自分の能力を伸ばしていく、誰にも居場所があって頑張っていける、そういう気持ちになれる日本を創り上げるため、アベノミクス「新・三本の矢」に沿って、その取組を加速させることとされた。

さらには、「経済・財政再生計画」の２年目に当たり、同計画に掲げる歳出改革を着実に実行するとともに、改革工程表を十分踏まえて歳出改革を着実に推進するとの基本的な考え方に立ち、その取組を的確に予算に反映させることとされた。

歳出改革は、経済再生と財政健全化に資するよう、「公的サービスの産業化」、「インセンティブ改革」、ＩＴ化などの「公共サービスのイノベーション」という３つの取組を中心に着実に推進するとともに、「見える化」の徹底・拡大や、指標や分析のオープンデータ化を積極的に進め、政策効果の測定につながる統計等の充実や早期公表に努めることとされた。

(2) 地方財政について

極めて厳しい地方財政の現状及び現下の経済情勢等を踏まえ、歳出面においては、一億総活躍社会の実現や地方創生、公共施設等の適正管理に対応するために必要な経費を計上するとともに、社会保障関係費の増加を適切に反映した計上を行う一方、国の取組と基調を合わせた歳出改革を行うこととされた。

また、歳入面においては、「基本方針２０１５」で示された「経済・財政再生計画」を踏まえ、地方の安定的な財政運営に必要な地方の一般財源総額について、平成２８年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保することを基本として、引き続き生じることとなった大幅な財源不足について、地方財政の運営上支障が生じないよう適切な補填措置を講じることとされた。

2 平成２９年度における本市の予算執行について

国が、人口減少と地域経済の縮小の流れに歯止めをかけ、将来にわたり地域の成長力を確保するため、地方創生や一億総活躍社会の実現に向けた取組を進めている中、十勝・帯広においては、少子高齢化やＴＰＰ協定のほか、平成２８年８月中旬からの一連の台風被害の復旧など、様々な課題に直面していた。

こうした課題に的確に対応し、持続的で活力ある地域をつくるためには、市民生活に身近なサービスの提供はもとより、国の動きなどを踏まえつつ、「フードバレーとかち」のさらなる展開や第六期総合計画並びに総合戦略の着実な推進などにより、取組の成果を広げていくことが重要であることから、平成２９年度予算の編成にあたっては、こうした考え方のもと、市民が幸せに感じられ、希望にあふれる十勝・帯広をつくるため、３つの重点を設定し、全庁が一丸となって取り組むこととし、編成にあたった。

予算の執行にあたっては、各部各課が市民の納得感・満足感を得られるよう使命感を持って、適切な予算執行に努め、事業の効果が最大、かつ適切な時期に現れるよう、計画的な事業実施に努め、歳入の収入減が見込まれる場合には、歳出の抑制など財源不足への対応方針を明らかにするなど、経営感覚を持った執行に心がけた。

この結果、平成２９年度における一般・特別会計に係る予算執行の概要は次のとおりとなった。

(1) 一般会計

予算規模は、当初 83,782,000,000 円、前年度当初予算対比 0.1%増の予算を計上した。
その後、各般の行政需要、景気動向の変化などに的確に対応するため、3,674,028,000 円の補正予算を計上した結果、前年度からの繰越明許費繰越額 3,129,644,260 円を含め、最終予算額は 90,585,672,260 円となった。

予算執行にあたっては、市税、国・道支出金をはじめとする財源の捕捉に努めるとともに、経費の節減など、効率的な財政運営に努めた結果、

歳入決算額	85,448,338,895 円（執行率 94.3%）
歳出決算額	85,027,108,867 円（執行率 93.9%）
歳入歳出差引残額	421,230,028 円となった。

なお、翌年度繰越額として 773,923,644 円を計上した。

(2) 特別会計

・ 国民健康保険会計

本年度は最終予算額 20,626,141,000 円を計上し、適正な保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額	19,997,240,780 円
歳出決算額	19,350,219,387 円となり、
歳入歳出差引残額	647,021,393 円を翌年度へ繰り越した。

・ 後期高齢者医療会計

本年度は最終予算額 2,187,193,000 円を計上し、北海道後期高齢者医療広域連合を中心に、適正な医療給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額	2,246,355,566 円
歳出決算額	2,162,736,866 円となり、
歳入歳出差引残額	83,618,700 円を翌年度へ繰り越した。

・ 介護保険会計

本年度は最終予算額 14,282,319,000 円を計上し、適正な介護保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額	14,238,339,666 円
歳出決算額	13,874,891,067 円となり、
歳入歳出差引残額	363,448,599 円を翌年度へ繰り越した。

・ 中島霊園事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 62,100,000 円を計上した。
墓地の貸付と効率的な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、61,541,105 円である。

・ 簡易水道事業会計

本年度は最終予算額 148,336,000 円を計上し、太平及び大正簡易水道の適正な経営管理を行った結果、

歳入決算額	131,417,994 円
歳出決算額	125,463,542 円となり、
歳入歳出差引残額	5,954,452 円を翌年度へ繰り越した。

なお、翌年度繰越額として 14,116,000 円を計上した。

・ 農村下水道事業会計

本年度は農業集落排水施設の維持管理経費、合併処理浄化槽の工事費等最終予算額 131,599,000 円を計上した。

合併処理浄化槽の工事のほか、農業集落排水施設の適正な維持管理を行った結果、歳入歳出決算額はともに、125,715,391 円である。

・ ばんえい競馬会計

本年度は最終予算額 23,801,418,000 円を計上し、全 150 日のばんえい競馬を開催した結果、

歳入決算額	22,834,956,929 円
歳出決算額	22,766,553,174 円となり、
歳入歳出差引残額	68,403,755 円を翌年度へ繰り越した。

・ 駐車場事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 142,497,000 円を計上した。

中心市街地における買い物客等の利便を図るとともに、駅北地下駐車場等の効率的な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、141,032,117 円である。

・ 空港事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 1,297,840,000 円を計上した。

とかち帯広空港の航空機離着陸の安全確保をはじめ、適正な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、1,278,663,606 円である。